



コラム

有識者の目から見た安全・安心まちづくり（33）

今回は「子どもを不審者から守るために」というテーマで、10月に開催しました平成29年度全国地域安全運動奈良県民大会で講演を賜りました、セルフディフェンスコミュニケーション開発 代表理事で、教育講演家の青嶋宮央先生にご寄稿いただきました。

『キャ〜!!』『たすけて〜!!』と、子供が叫ぶ声が聞こえたら、あなたはどのようにしますか？ 友達とふざけて遊んでいるのかと思ひ込み、大人は意外と気にかけてくれないことがあるのです。また、いきなり警察に電話をする人は、少ないと思います。では、なぜ警察に電話をする人が、少ないのでしょうか？



それは、『たすけて〜!!』だけでは、何をしたらいいのか、どうしたらいいのか、わからないからです。

私は、各地の教育委員会から依頼をされて小学校・中学校で不審者対策・いじめなどあらゆる危険から自分で自分を守る【セルフディフェンス】という授業をしていて、子供たちに、助けを求めるときには『警察呼んで〜!!』と叫ぶように教えています。子供が『警察呼んで〜!!』なんて叫んでいたら、大人はただ事ではないと思うからです。また、聞いた人が、何をしたいか＝『警察を呼んで欲しい』ということがわかり、行動しやすくなるからです。状況がわからなくても、『子供が公園で警察呼んで!!と叫んでいます』と、警察に電話すると思います。

実は、不審者も『警察!!』と叫ばれると、我に返り、逃げ出すという例もありました。私たち大人も車の運転中、何も悪い事をしていないのに、パトカーとすれ違つと『ドキッ!!』としますよね。これと同じ心理なのです。

それに、『キャ〜!!』と叫ぶと、呼吸が荒くなり、興奮度が高まります。そのため、冷静に逃げることを考えられないこともあります。また性的いたずらや露出が目的の不審者の場合、『キャ〜!!』と叫ぶことで、相手を余計興奮させ、刺激させることもあります。たまに雑誌等で『火事だ〜!!』と叫ぶと注目されるため良いとあります。これは海外から来ていて、外国では『ファイヤー』が、叫びやすいので推奨されていますが、日本ではおすすしめしません。子供は正直なため、火事でないのに『火事だ〜!!』と、とっさのときに嘘の言葉を叫べません。海外の不審者対策をそのまま日本に取り入れることは、環境や治安の違いもあり、難しいことを知っておいてください。

また、不審者が突然現れると、あまりにもびっくりしすぎて声が出ないこともあります。そんな時に役立つのが、防犯ブザーです。歩くときは、首からぶら下げたり、カバンにつけたり、防犯ブザーを見せるように持っているだけで狙われにくくなります。

不審者は『たまたまそこを通つたから襲つた。誰でも良かった』とよく言います。防犯ブザーを持っている子供と、持っていない子供が同じ条件で歩いていたら、不審者は騒がれたくないので、防犯ブザーを持っていない子供の方を狙いやすくなります。

たまに、防犯ブザーと家の鍵を一緒に首からぶら下げている子供を見ますが、これは大変危険です。鍵を持っているというのは、家に家族がいないと教えていることとなります。防犯ブザーは見せるようにし、鍵は見えないところにつけるように教えてください。特に、友達と別れ、一人になった時は狙われやすくなります。一人になったら前を向いて、走らなくていいので早歩きをします。ゆっくり歩いてる子供は、声がかかりやすいですし、下向いて歩いている子供は、目の前に不審者が来ても気づかないことがあります。ありとでも危険です。

一人の時は、防犯ブザーは見せるように持ち、前を向いて早歩きすることを心掛け、狙われにくくすることです。不審者対策とは、狙われにくくする対策が最も大切なことなのです。

<プロフィール> 青嶋宮央 教育講演家/セルフディフェンスコミュニケーション開発 代表理事

スクールソーシャルワーカーとして全国の教育委員会から委託を受け、小・中・高校で『いじめ・悪い誘いの断り方・言葉の暴力・不審者対策など自分を守るためのセルフディフェンス、友達との上手なコミュニケーション』を教育指導している。子どもだけでなく、教職員研修、保護者向け講演会、官公庁主催の講演会、大学、専門学校、文化センター等で、大人の教育にも力を注いでいる。セルフディフェンスコミュニケーション開発ホームページ <http://www.sdck.jp>